

ICT 活用に関する実践について、 教員同士で意識的に行う「日常的な情報共有」

A:校内研修 I 型(日常的に行う研修)

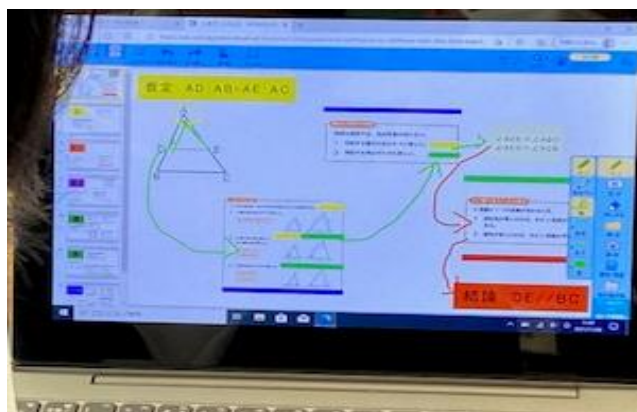
このような教員の姿が生まれました!

- 職員室の何気ない会話から、「こんな教材シートを作ってみたけれど、どうかな。」「こうすると生徒のつまずきが減るのではないかな。」など、ICT を活用した実践の交流が増えました。
- 「ICT を活用して、生徒にとって効果的な学習が展開できるような工夫を考えているのだけれど。」と教員同士で相談する姿が増えました。

職員の日常会話からのアドバイス

教材シート等の作成

- ・数学科教員と社会科教員の放課後の会話。
数 T:「『相似と比』の教材シートを作成したのだけれど、生徒たちにとって使いやすいだろうか？」
社 T:「どの定義や定理を使ったらよいか分からない生徒にとっては、角や辺などの種類に分けて整理し、タイトルに色を付けてみたらどうか。」
数 T:「なるほど。確かに！」
- ・他の教員からアドバイスを受け、自分とは違う視点で教材シートを再構成する。



教材作成のポイント

- 同じ教科の教員や他教科の教員との何気ない会話からヒントを得たり、教科部会でアドバイスをを受けたりすることで、自分にはない視点で教材に向き合うことができる。
- 「誰もが見やすい、分かりやすい」教材シートを作成することで、教科の資質・能力の育成につながる。

「できた・わかった」の授業の実現

タブレットを活用して個別学習



- ・学習者用デジタル教科書を活用して、既習内容を確認し、思考を整理する。
- ・試行錯誤しながら、教材シートに自己の考え方を記入する。
- ・本時、身に付けた考えや方法を教材シートにまとめる。

タブレットを活用して協働学習

- ・ペアを作り、互いの演奏をそれぞれの ICT 端末で撮影する。自己の演奏について確認したり、リズムを再調整したりする。(音楽)
- ・小集団における協働的な学びにより、意見交流や、意見の整理をする。(国語)



ICT活用推進担当の指導のポイント

- 端末の特性を理解すると、授業で「できること」と「できないこと」が分かってくる。そのため、現段階で実践できることを教員間で交流し、効果的な ICT 活用の在り方について実践を積み上げていく。
- ICT 活用推進担当が各授業に入りながら、示範したり助言したりすることで、活用事例の幅を広げる。